

実践研究報告書

大和市立福田小学校

校長 務基 文彦

テーマ 『新学習指導要領と健康教育教材とのかかわりを通して』

1 健康教育に係る学校の現状と課題

本校の児童の家庭環境や生活の様子を見ていると、決して本校の児童だけに限らずだが、不規則な生活を送っている児童が多いように感じる。まず、食習慣をみても朝食抜きや、夕飯にファストフード、偏食が多く、給食の残量の多さも目立つ。また、生活時間も不規則であり、TVやゲームをして遅くまで起きていたり、習い事が終わる時間が遅いため就寝時間が10時以降になったり、ということを経験している児童から聞くことがある。

心の健康に係る現状でいくと、集団生活のため、どうしても友だち同士のトラブルがある。交換ノートや携帯電話のメール以外にも、スマートフォンで行われる「LINE」やSNSコミュニティ、ゲーム機器でのチャットなどでのトラブルがあげられる。顔を見ずに友だちとつながろうとして、知らぬ間に傷つけてしまう。言った・言わないなどのトラブルも少なくない。

こうした生活習慣や友だちとの関わりがある中で、学校では口で伝えるだけでなく、子どもたち一人ひとりに自分の生活や体について考えさせ、改善させる必要があると考えた。

2 実践のねらい

学習指導要領改訂に伴う調和の取れた育成の重視

【新学習指導要領改訂】

正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂

「生きる力」という理念の共有

基礎的・基本的な知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力等の育成

確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保

学習意欲の向上や学習習慣の確立

豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実・保健領域の基本方針

- ・ 確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成を重視
- ・ 徳育や体育の充実のほか、体験活動の充実により、他者、社会、自然・環境とかわる中で、これらとともに生きる自分への自信をもたせる必要性

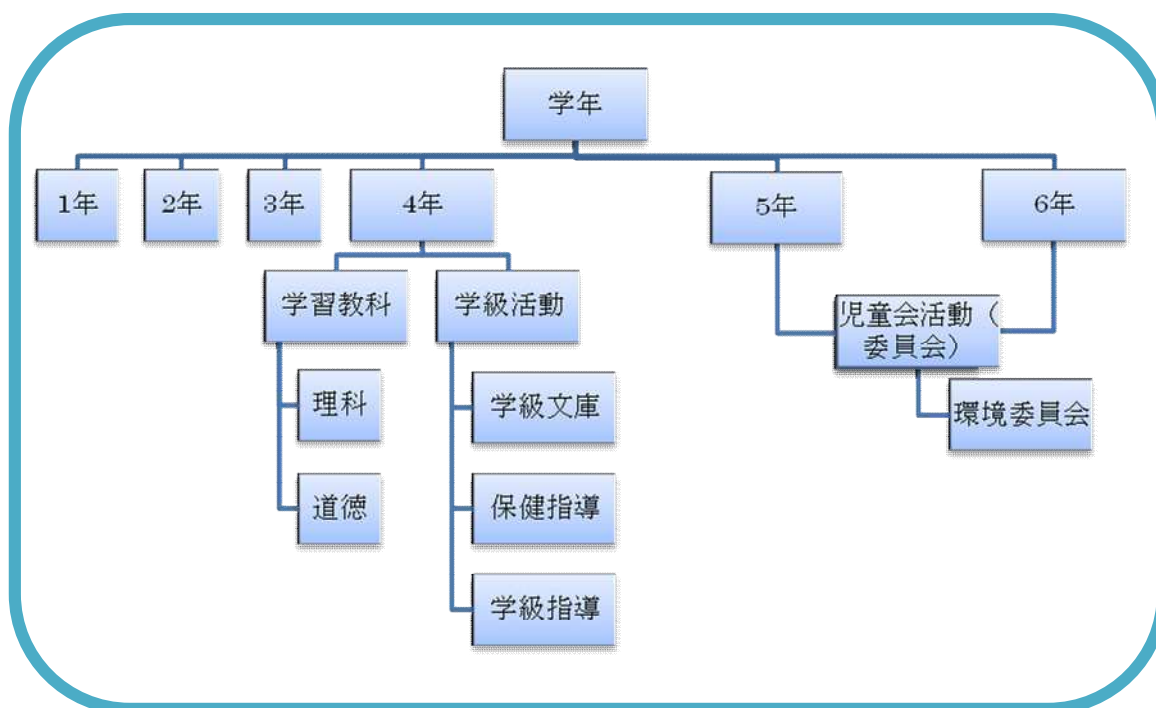
新学習指導要領と健康教育教材とのかかわり

「生きる力」である、豊かな心や健やかな体を育むためには、まず自分の体のしくみを学ばせることが大切であると考えた。その方法として、「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」を活用し、親しみやすい漫画や挿絵と共に、児童の中に知識として組み込んでいく。ただ情報の一つとしてとらえるのではなく、知った上で、自分の健康のために生活習慣を振り返り、本校の児童に多く見られる(本校に限らず)、不規則な生活習慣(食べ物・生活時間)を改善(実践)し、生きている自分に対し自信をもってもらい、体・命を大切にすることができると考えた。

そして委員会では、健康面を本校全体に広げていった。そうした活動をしていくことで、学級での道徳や理科・保健の授業に限らず、低学年～高学年全員が対象となり、普段の学校生活の中で自然と児童自身が自ら考える場を設定することができると考えた。

3 実践の内容と成果・課題

(1) 実践組織(校内体制)



(2) 実践内容

4 学年

- 目的
- ・ **教室環境** : 「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」の周知のための学級文庫
 - ・ **学習教科** : 参考資料としての活用 理科「ヒトの体のつくりと運動」
学級指導での活用 「心の健康」を目指す実践

学級文庫

今まで、OTSUKA 漫画ヘルシー文庫は、保健室に置かれている状態だった。そのため文庫を知らない児童が多い。まず子どもたちが自然に手に取って読めるよう教室の学級文庫として置いておいた。



マンガだと思って読んだら、体のことのマンガでおもしろかったです。(男子児童).....



色んなキャラクターが出てきて面白かった。カラーだったから見やすかったです。(女子児童)

理科 「人の体のつくりと運動」

骨と筋肉の仕組みについての関連図書の一つとして、OTSUKA 漫画ヘルシー文庫も紹介した。



白筋が発達した人、赤筋が発達した人と分かれると知って、同じ体なのに、不思議だと思った。(男子児童)

スポーツによって、白筋を必要とするか、赤筋を必要とするかが違っておもしろいと思った。同じ筋肉でも役割が違うということを知った。(男子児童)

道徳・学級指導

「探検！わたしたちの体 脳とこころ」にある、「こころもカゼをひく」を使い、定期的に「友だちとのかかわり方」、「友だちへの打ち明け方」について考えさせる時間をつくった。



.....さんのことで悩んでいたけど、ちゃんと話してみようと思った。(女子児童)

保健指導

毎月出る、「ほけんだより」と一緒に OTSUKA 漫画ヘルシー文庫を使って補足を行なった。生活習慣にかかわる指導の際に、漫画を通して理解を深めるようにした。

早寝・早起きを心がけようと思った。(男子児童)

運動会練習で、たくさん汗をかいたから、ちゃんと水分をとるようにする。(女子児童)

委員会活動 (環境委員会)

目的 ・ 資料活用 手洗い・うがい促進のための校内放送

インフルエンザ予防の呼びかけ劇(ストーリー引用)

校内放送

「くらしに身近な病気とケガ うつる病気」を読ませた。全校児童に手洗い・うがいの大切さ、空気換気の必要性について知ってもらおうと、毎日2回(中休み・昼休み)に放送するようにした。季節によって放送内容を変え、特にインフルエンザが多くなる季節は、暖房でのどを痛めやすいので、こまめにうがいをするように呼びかけるようにした。



放送した後、休み時間窓を開けて換気をしているクラスを見ると、放送してよかったなぁと思いました。.....
手洗い・うがいは、休み時間の後、体育の後、給食の前に必ずしてもらいたいなと思いました。冬は特に風邪が流行るので、一人ひとりが心がけてほしいなと思いました。(男子児童)

児童朝会

漫画の内容を劇にし、毎日の放送で流している内容をより詳しくわかりやすく伝えられるようにした。「インフルエンザとその予防」にある、バカボンの話を用い、ナレーター、バカボンのパパ役、はじめちゃん役、ウィルス役と配役を決め、低学年から高学年までどの学年にもわかりやすいようにした。また、途中でクイズも混ぜ、インフルエンザについての知識を深めた。



ウィルスが体にいたら怖いと思いました。インフルエンザにならないように気をつけます。(低学年 女子児童)

劇とクイズでわかりやすかったです。.....
予防接種をする理由がわかりました。注射をするのとならないのでは、全然違うので、これからちゃんと受けようとおもいました。.....
(高学年 男子児童)

(3) 成果

アンケートによる成果分析

クラス アンケート

33人

Q 「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」をどれくらい読みましたか。					
全部	20人	10冊以上	9人	5冊くらい	4人
Q 「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」を読んでどうでしたか。(複数回答)					
おもしろかった	28人	わかりやすかった	25人	つまらなかった	5人
勉強になった	20人	話によって違う	16人		
Q どうして読もうと思ったのですか。(複数回答)					
教室にあったから	30人	マンガだったから	28人	カラーの本だったから	28人
おもしろそうだったから	25人	なんとなく	5人	他になかったから	6人
Q 読んだ感想を書きましょう。(記述)					
・漫画だったので全部読めました。途中、クイズやすごろくみたいのがあったので、友だちとやって、楽しかったです。					
・バカボンの話が面白かった。知らない絵のマンガもけっこうおもしろかった。					
・初めて知ることがあって勉強になった。病気について知ることができた。など					

大多数の児童が、全部読み、「おもしろかった・わかりやすかった」と回答している。その理由の一つとして、教室にあったことが大きいといえる。今までは保健室に置いてあり、存在を知らなかったため読む機会がなかった。今回、教室に置いておくことで身近に気軽に子どもの目や手に触れ、読む機会を一段と増やすことができた。

授業・学級指導での活用による成果

授業等で積極的に活用していくことで、子どもたちの中に知識として入っていき、これまでの自分の生活を見直し、実生活に活かされていった。第2次成長期に入る4年生にとって、自分の身体の仕組みについて正しく知ること、今まで以上に自分の身体について興味・関心を持ち、大切にしようという姿勢が見られた。

高学年は体の変化だけでなく、心の変化が始まる歳でもあるため、「脳とこころ」のような友だちと自分についての漫画も、子どもたちにとって必要だということがわかった。課題でもあった友だちとのトラブル時も、道徳や学級指導時に資料として活用した。そうしたことによって少しずつ心の中にある不安や悩みを解決する方法や気持ちの持ち方を理解することができた。

(4) 課題

より多くの児童に読んでもらうための工夫

・学年文庫の活用

まだまだ校内の認知度は低い。「1冊が薄い・さっと読める・漫画で読みやすい・カラー」という利点があるのだから、2年生以上であれば読むことができるだろう。全クラスに全巻用意するというのは厳しいと思うが、本校のように「学年文庫」(学年の本棚)があるような学校ならば、各学年に置いておけばより多くの児童に読まれるようになるのではないかと考える。

・学校図書館の活用

学校図書館に置き、自由に貸し出しがされるような状態であれば、手軽に児童の手に触れられる機会を増やすことができ、一人ひとりが自分の身体について関心をもつきっかけになるのではないかと考える。

重要視すべき「心の健康」

多くの内容が体についてだが、高学年においては体についてだけでなく、心の健康に触れた内容をもっと多くしてほしいと感じた。携帯電話やSNSコミュニティでのかかわりが増えている中、子どもたちは、顔を見てのコミュニケーションやつながりが薄くなっている。そういった中で起こったトラブルを解決する能力は、未熟である。「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」を通して心のケアも重要視されると子どもたちの興味・関心もより強くなるのではないかと考える。現代の児童の実態に寄り添った「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」が必要と感じた。

4 実践のまとめ

実践を通し、児童がいかに関心を持ち、広めようとして、さらに深めようとしていたか、がわかった。普段、子どもたちが読書活動を進めるに当たり、いつもいつもおもしろい本に出会えるわけではない。なかなか興味がある本に出会えない児童もいる。そういった中で、「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」は読んだ分、自分の知識になる。「へえ～」と思い、誰かに話したくなる。普段本を読まない児童が、朝読書の時間中ずっと「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」を読んでいる。読んで終わりではなく、「虫歯にならないように」と給食後、歯ブラシをするようになった。自分で読み、納得し、実践することに楽しさを見出したように感じる。教室に置いたり、授業で扱ったりすることで、子どもたちの中に自然と入っていく。特に体は一生付き合っていくものであり、切り離すことができない。「漫画だから・カラーだから」という理由で手に取ったにしろ、知識になったことに違いはない。

今回は、大きく分けて学年・委員会での実践だったが、他学年など、様々な場面で活用できると感じた。教師が「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」の内容を理解し、年間カリキュラムと照らし合わせて扱うことで、学びが深まると考える。